

諫早湾干拓事業 開門調査のお知らせ



諫早湾干拓事業
開門調査

開門調査はなぜ 必要なのでしょうか。

- 1 今期のノリ作は、順調な作柄となっておりますが、有明海の環境は多年にわたる諸要因により悪化しています。
- 2 有明海の環境改善の方策については、漁場利用の適正化、酸処理剤の適正利用、漁場環境の改善等の対策が実施されています。
- 3 有明海の環境改善のための有効な方策を検討・実施していくためには、有明海の環境に影響を及ぼしているとされる過去の開発行為や周辺の社会・経済的变化などの環境変化の原因について、総合的な検討が必要とされています。
- 4 有明海全体としての環境改善の方策を講ずるため、総合的な調査の一環として、諫早湾干拓事業が、有明海の環境に及ぼしているとされる影響度合いの解明に向け、開門調査を行うことが必要です。

農林水産省

開門調査の内容は以下のとおりです。

●水質や潮の流れなどを観測します。

開門調査は、調整池に短期間海水の出し入れを行い、濁りや塩分などの水質や潮の流れなどの変化を観測します。

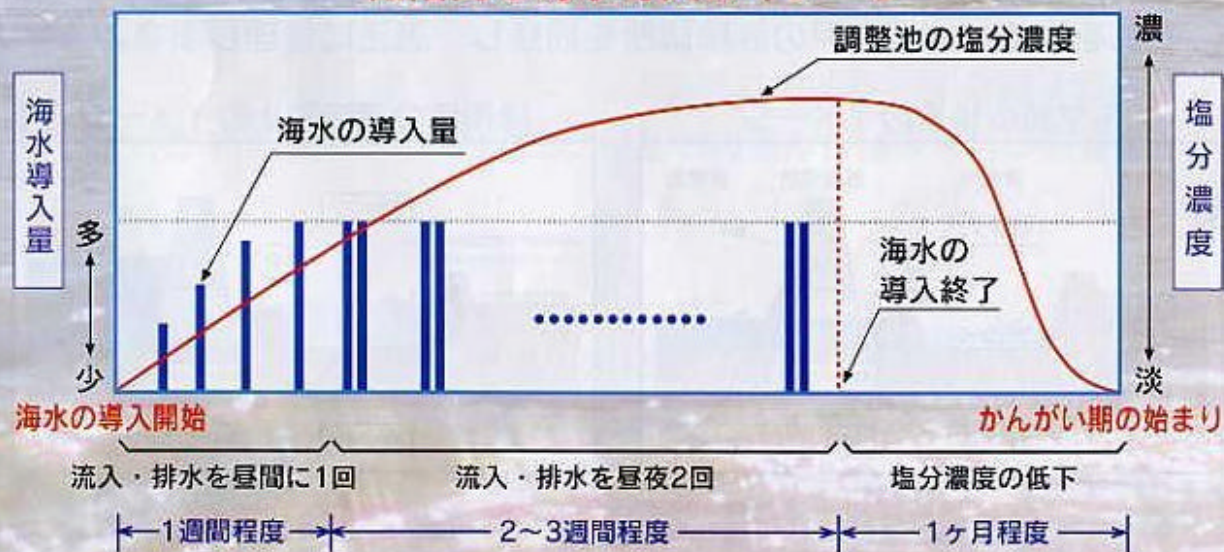
●排水門からの流入と排水の方法を工夫します。

最初の1週間程度は、排水門からの流入(海水導入)と排水により生じる濁り等の影響を肉眼で確認できるよう、昼間のみの流入・排水とします。

また、この期間に流入と排水の量を段階的に増やしていきます。

その後、調整池の水位変動を20cm(マイナス1.0m～マイナス1.2m)とする流入・排水を昼夜2回、2～3週間程度継続します。

段階的な海水導入のイメージ



●調査期間は2ヶ月程度です。

調査は、海水の導入の開始前・導入中・導入終了後の観測を予定しています。これらの調査期間は、全体で2ヶ月程度です。

調査データを公表します。

●調整池及び湾内に関するデータを常時公表します。

海水の導入期間中は、調整池や湾内の位置図に示す各点で、毎日データの収集を行い、そのデータはインターネット等で常時公表します。

- ・インターネット(アドレス) <http://www.kyushu.maff.go.jp>
(九州農政局ホームページの諫早関連情報)
- ・掲示板：諫早湾干拓事務所前、潮受堤防北部ゲート前



●潮遊池の塩分濃度も公表します。

背後地の塩害を防止するため、調整池の塩水が浸入する可能性のある既設樋門付近の潮遊池において、塩分濃度を毎日観測して上記と同様の方法で公表します。

防災機能は今までどおりです。

湾内の漁業に被害が生じないように努めます。

●洪水調整機能は変化しません。

調整池の水位は、開門調査の期間中も、今までどおり標高マイナス1.0m以下で管理します。

●海水の導入時は、ゲートを全開しません。

海水導入時のゲートの開度は、最大でも90cmです。

●ガタ土が既設樋門の前面に堆積することは、ほとんどありません。

ガタ土が堆積しないように、ゆっくりと海水を導入します。

●調整池の淡水魚について対策を講じます。

調整池の中の魚を一時的に避難場所に移し、開門調査の終了後に調整池へ戻すことを考えています。

魚が死んだ時には、湾内に流れ出ないように、網などにより回収に努めます。

●排水の方法を工夫します。

調整池の淡水や濁りが急激に湾内に広がり漁業に被害が出ないように、排水量を段階的に増加させます。

●海水の導入を一時中断することがあります。

湾内の水質や漁場への影響などを監視しながら開門調査を実施しますが、不測の事態が生じた場合及び生じるおそれがある場合には、海水の導入を一時中断します。

例えば、水質が急変したり、アサリの生育状況が悪化した場合などが考えられます。

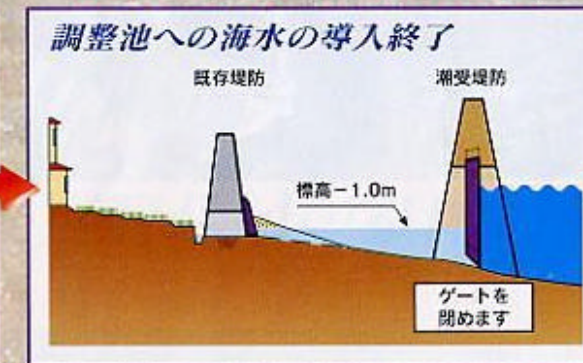
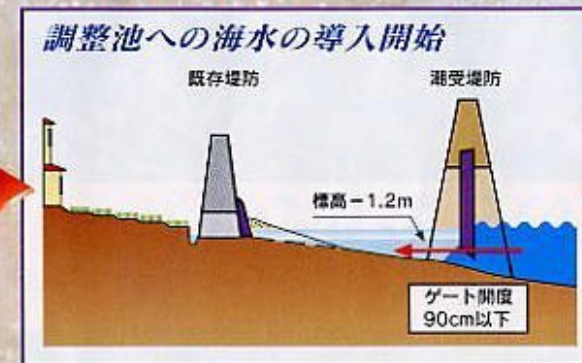
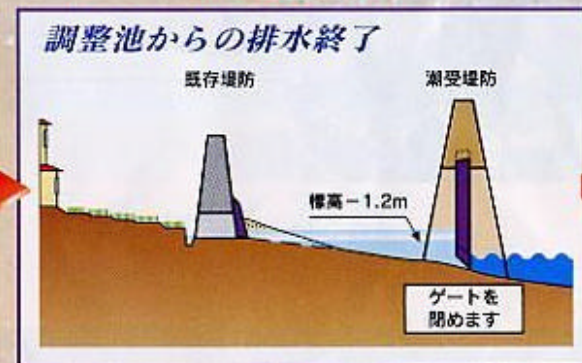
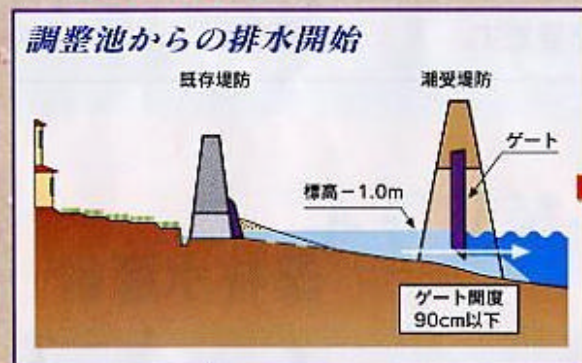
調整池の水位変動幅を20cmに保って行う海水導入・排水のイメージ

① 下げ潮時にゲートを開けて排水を始めます。

② 調整池水位がマイナス1.2mでゲートを閉めます。

③ 上げ潮時にゲートを開けて海水を導入します。

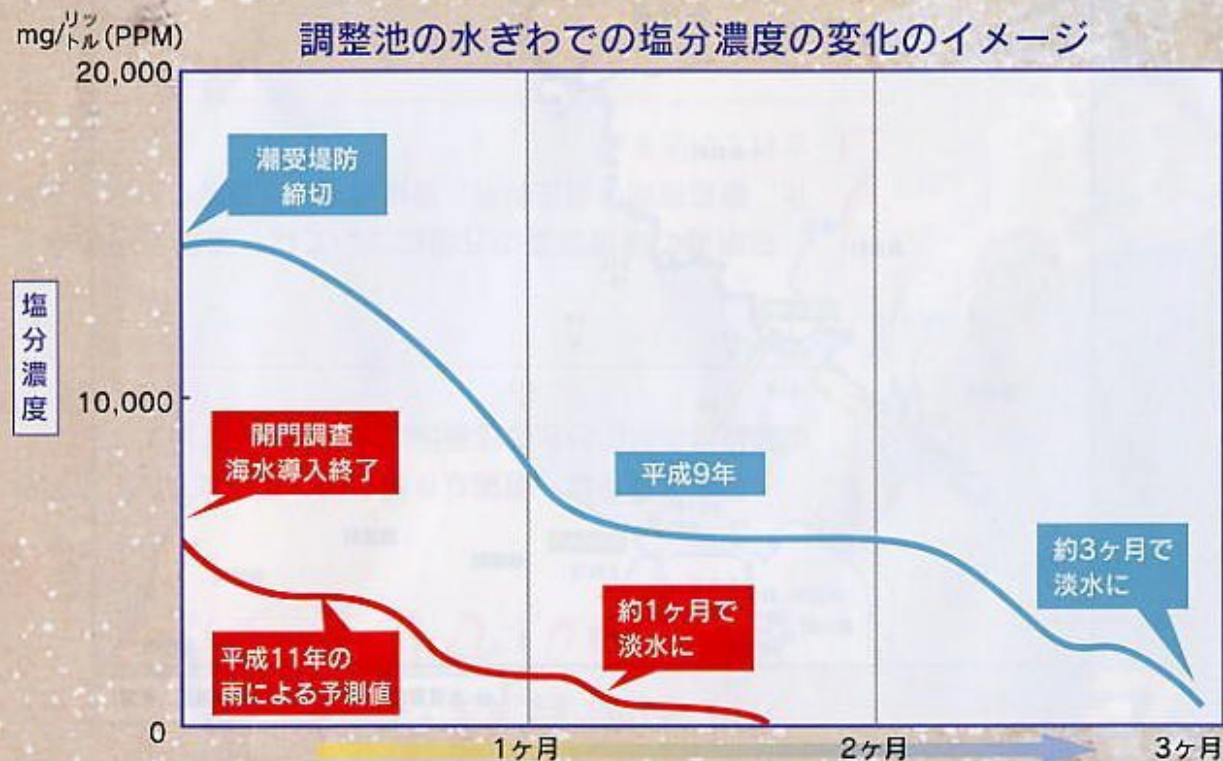
④ 調整池水位がマイナス1.0mとなったところでゲートを閉めます。



①へ戻る

調整池の塩水は約1ヶ月で淡水に戻ります。

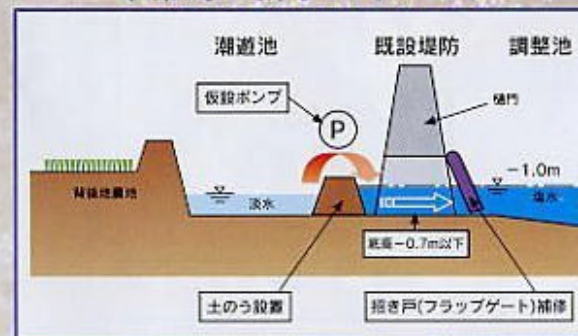
- 潮受堤防の締切り後、調整池の海水は3ヶ月でほぼ淡水になりました。
- 今回、調整池に海水を導入した後、平年並みの雨が降れば、河川水が流れ込みやすい水ぎわでは、約1ヶ月で元の淡水に戻ります。



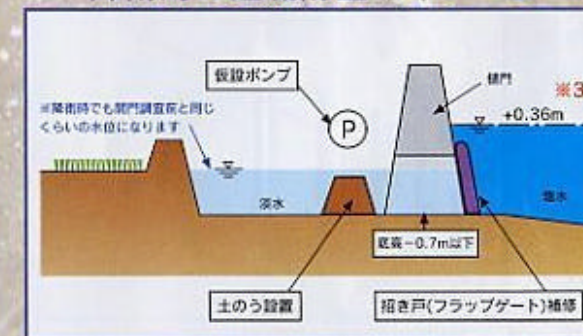
潮遊池からの農業用水は今までどおり使えます。

- 万が一、潮遊池の塩分濃度が上昇し、農作物への被害が回避できない場合は、海水の導入を一時中断します。
- **既設樋門の底高が標高マイナス0.7m以下の場合。**
 - ・ 潮遊池への塩水の浸入を防ぐため、土のうを設置します。
 - ・ 背後地から調整池への平常時の排水は土のうを越えて行う必要があるため、仮設ポンプを設置し、24時間体制でその管理を行います。
- **既設樋門の底高が標高プラス0.7m以下で、招き戸（フラップゲート）が故障している場合。**
 - ・ 降雨時は、調整池水位が上昇し塩水が逆流するおそれがあることから、それを防ぐため招き戸の故障箇所を補修し、適正に管理します。

平常時の排水のイメージ



降雨時の逆流防止のイメージ



※1： マイナス0.7mは、調整池の管理水位マイナス1.0mに安全性を加味して0.3m高くしたものの。

※2： プラス0.7mは、※3の調整池水位プラス0.36mに安全性を加味したものの。

※3： 調整池水位プラス0.36mは、諫早気象観測所における過去24年間の非洪水期の降雨実績をもとに推定した調整池の最高水位。

有明海全体としての環境改善の方策を講ずるための総合的な調査の一環として、開門調査を行うことが必要であると考えています。皆様のご理解とご協力をお願いします。

問い合わせ先

九州農政局 開門調査現地本部広報担当

TEL 0957-21-3566